昭和62年茨城県鉱工業指数の概況

全国の動向

1．生　産

昭和62年の鉱工業生産は前年比3.4%の上昇となった。昭和61年には急激な円高によるデフレ効果等の影響により，第1次石油危機後の昭和50年以来11年ぶりの前年割れとなったものの，昭和62年に入ってから円高メリットの顕在化等から国内需要が拡大するとともに回復に転じ，更に年後半には緊急経済対策の効果等も加わり大幅に上昇した。

昭和62年鉱工業生産活動の特徴としては，

- 生産が，62年1～3月期より緩慢な回復局面にはいり，4～6月期にはわずかに低下したものの，7～9，10～12月期に内需主導で急角度で上昇したこと，
- 電気機械工業が，鉱工業生産全体の上昇に大きく寄与したこと，

が挙げられる。

総合経済対策や緊急経済対策等の効果及び企業の内需転換努力などに加えて，輸入原材料価格の低下，物価の安定等円高のメリットが顕在化してきたことにより内需主導の景気回復を達成したと思われる。

62年の鉱工業生産の四半期別の推移をみると(第1表)，1～3月期前期比0.9%と7期ぶりの上昇になったものの，4～6月期は内需は増加したが，輸出が減少したことなどにより横ばいであった。しかし，下期は7～9月期同3.6%，10～12月期は同3.5%と大幅に上昇した。

業種別にみると，生産の大幅上昇は，61年年央からの素材型業種総合の安定した上昇に加え，年後半から加工型業種総合が大幅に上昇したことなどによるものと考えられる。

① そこで，加工型業種総合についてみると，62年の加工型業種総合は前年比3.7%と61年の伸び(同0.1%)を大幅に上回った。特に，年後半は7～9月期前期比5.1%，10～12月期同5.1%と鉱工業生産上昇の主因となった。

- 電気機械工業は61年に増勢の鈍化がみられたが，62年に入ってから前年比9.1%の上昇を示し，前回の景気回復局面と同様，鉱工業生産の拡大の牽引役となった。ただし，前回の景気回復局面との違いは内需主導で拡大したことである。
- 一般機械工業は，内需関連の土木用機械が好調に推移したものの，年前半，製造業の設備投資の低迷等により金属加工機械や事務用機械が減少したことにより，前年比0.3%とわずかな上昇であった。しかし，年後半から製造業の設備投資が回復基調となったことにより着実に回復している(62年7～9月期前期比2.4%，10～12月期同5.4%)。
- 輸送機械工業は，モデルチェンジ等を背景として乗用車の国内需要が好調であったものの，鋼船の大幅減少などにより，前年比△1.3%の低下となった。
- 精密機械工業は，前年比0.9%の上昇と60年(前年比14.2%)，61年(同4.5%)を大幅に下回った。

② 一方，素材型業種総合についてみると，62年の素材型業種総合は前年比4.3%の上昇となった。また，四半期別の推移をみると期を追うごとに増勢を強めている。

- 鉄鋼業は内需の増加等により前年比2.0%の上昇を示した。特に，普通鋼冷延広幅帯鋼，

亜鉛めっき鋼板などの上昇が目立つ。

- 非鉄金属工業は，年間を通じて安定した伸びをみせたアルミニウム圧延製品等により前年比7.6%の上昇を示した。
- 窯業・土石製品工業は，遠心力鉄筋コンクリートパイル等により前年比3.6%の上昇を示した。
- 化学工業(除く医薬品)は，石油化学製品の需要が旺盛なことに支えられて前年比5.2%の上昇を示した。
- パルプ・紙・紙加工品工業は，家電や飲料用の段ボールの需要増などからダンボール原紙，ダンボールシートが上昇したことなどにより前年比6.0%の上昇を示した。

③ その他の業種については，繊維工業は円高に伴う製品輸入の増加により織物等の生産が減少し前年比△1.6%と3年連続の低下となった。

また，木材・木製品工業は，高水準の住宅着工を背景に製材が増加したことなどにより前年比5.6%の上昇を示した。

2．出　荷

昭和62年の鉱工業出荷は，国内向け出荷が好調だったため，前年比3.9%の上昇となった。

3．在　庫

昭和62年の鉱工業生産者在庫は，前年末比△3.0%と2年連続の低下となった。

表―1　鉱工業指数の推移(全国)

(昭和60年＝100，季調済)

	昭和60年	61年	62年	60年				61年				62年			
				1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12
生産	100.0	99.8	103.2	99.3	100.4	100.1	100.1	99.9	99.9	99.6	99.5	100.4	100.4	104.0	107.6
前期(年)比	3.7	△0.2	3.4	0.1	1.1	△0.3	0.0	△0.2	0.0	△0.3	△0.1	0.9	0.0	3.6	3.5
前年同期比	—	—	—	5.4	5.2	3.3	0.9	0.6	△0.5	△0.5	△0.5	0.6	0.5	4.3	8.2
出荷	100.0	100.5	104.4	99.0	100.3	100.2	100.5	100.1	100.5	100.4	101.0	102.1	102.0	105.4	108.1
前期(年)比	3.4	0.5	3.9	0.0	1.3	△0.1	0.3	△0.4	0.4	△0.1	0.6	1.1	△0.1	3.3	2.6
前年同期比	—	—	—	4.2	4.7	3.4	1.6	1.0	0.4	0.1	0.7	2.0	1.1	5.1	7.3
在庫	98.3	97.1	94.2	99.1	100.6	100.1	100.8	103.3	101.1	101.4	99.6	98.4	96.9	96.5	96.8
前期(年)末比	3.5	△1.2	△3.0	1.7	1.5	△0.5	0.7	2.5	△2.1	0.3	△1.8	△1.2	△1.5	△0.4	0.3

〔注〕 年の数値は原指数による。

本県の動向

62年の本県の鉱工業指数をみると，生産は106.2で前年比3.9%の上昇，出荷は107.9で同5.6%の上昇，在庫は88.1で同△6.9%の低下であった。

鉱工業生産は，円高の影響により昭和60年以降停滞傾向で推移していたものの，昭和62年は国内需要の拡大とともに，化学工業，窯業・土石製品工業，非鉄金属工業が大幅に上昇したこと，また昭和62年前半は停滞ぎみであった電気機械工業，一般機械工業が年後半に急速に回復し上昇したことにより鉱工業全体で3.9%上昇した。

(表―2，表―3，図―1)

年間の動きを四半期別にみると，生産は1～3月期は前期比で0.3%の上昇，4～6月期は同△1.0%の低下，7～9月期は同4.1%の上昇，10～12月期は同5.3%の上昇と年前半は停滞していたものの，年後半に大幅に上昇した。出荷は1～3月期は前期比で△0.1%の低下，4～6月期は同1.2%の上昇，7～9月期は同3.7%の上昇，10～12月期は同4.3%の上昇となった。在庫は1～3月期は前期比で△1.8%の低下，4～6月期は同0.7%の上昇，7～9月期は同1.0%の上昇，10～12月期は同△6.6%の低下となった。

(表―2，図―1)

前年同期比でみると，生産は1～3月期は1.8%の上昇，4～6月期は横ばい，7～9月期は4.7%の上昇，10～12月期は9.0%の上昇と，年後半は大幅に上昇した。出荷は1～3月期は2.1%の上昇，4～6月期は3.6%の上昇，7～9月期は

表―2　鉱工業指数の推移(茨城県)

(昭和60年＝100，季調済)

	昭和60年	61年	62年	60年				61年				62年			
				1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12
生産	100.0	102.2	106.2	99.5	101.4	101.8	97.3	101.4	102.4	101.8	103.2	103.5	102.4	106.6	112.3
前期(年)比	1.6	2.2	3.9	△1.9	1.9	0.4	△4.4	4.2	1.0	△0.7	1.4	0.3	△1.0	4.1	5.3
前年同期比	—	—	—	3.5	3.8	3.1	△3.7	1.8	1.2	△0.4	6.4	1.8	0.0	4.7	9.0
出荷	100.0	102.2	107.9	99.4	101.3	101.7	97.7	101.6	101.3	101.6	104.0	103.9	105.1	109.0	113.6
前期(年)比	1.2	2.2	5.6	△1.9	1.9	0.4	△3.9	4.0	△0.3	0.3	2.3	△0.1	1.2	3.7	4.3
前年同期比	—	—	—	2.9	2.4	2.9	△3.4	2.3	0.0	△0.1	6.6	2.1	3.6	7.2	9.3
在庫	97.4	94.6	88.1	99.4	101.0	100.6	101.2	101.2	97.2	95.0	98.2	96.5	97.1	98.1	91.6
前期(年)比	2.9	△2.9	△6.9	1.1	1.6	△0.4	0.6	0.0	△4.0	△2.2	3.4	△1.8	0.7	1.0	△6.6
前年同期比	—	—	—	16.2	13.2	7.5	2.9	1.8	△3.8	△5.6	△2.9	△4.9	△0.1	3.5	△6.9

〔注〕 年の数値は原指数による。

7.2%の上昇，10～12月期は9.3%の上昇となった。在庫は1～3月期は△4.9%の低下，4～6月期は△0.1%の低下，7～9月期は3.5%の上昇，10～12月期は△6.9%の低下となった。

(表―2，図―1)

生産を業種別にみると，化学工業(前年比21.2%)，非鉄金属工業(同13.0%)，窯業・土石製品工業(同10.4%)が大幅に上昇，これらを含めた素材型業種全体でも前年比11.4%と大幅に上昇し，鉱工業全体の上昇に大きく寄与した。一方，一般機械工業（前年比△0.5%)，電気機械工業(同0.7%)，輸送機械工業(同△12.8%)，精密機械工業(同△5.7%)の加工型業種全体は，前年比△0.7%とわずかに低下したが，年後半の7～9月期は前期比8.4%，10～12月期は同5.8%の上昇と回復傾向を示し，鉱工業全体の年後半の大幅な上昇の要因となった。特に電気機械工業は，7～9月期は前期比14.2%，10～12月期は同9.0%と年後半に大幅に上昇した。

(表―3)

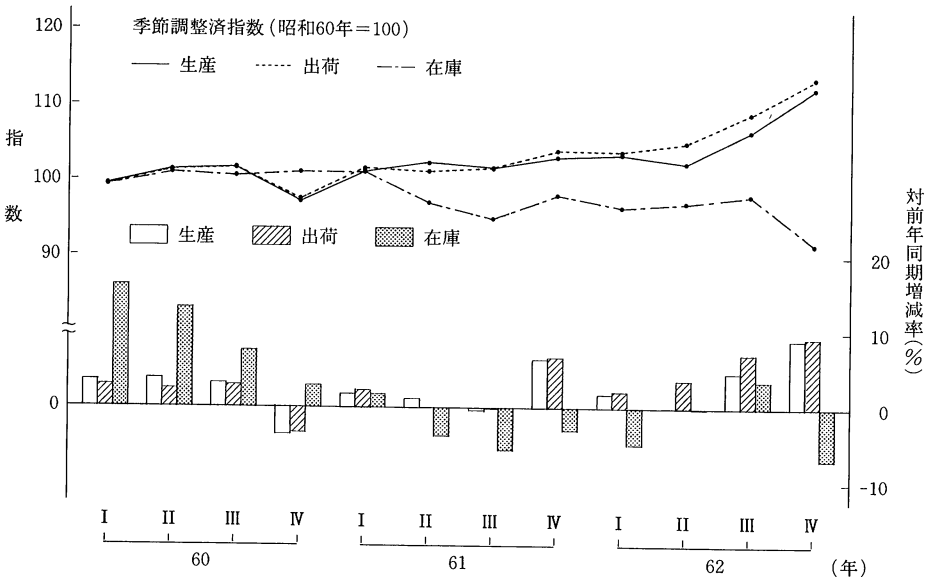
表―3　業種別生産指数対前年(前期)増減率

(単位:%)

業種	61年	62年	62年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
鉱工業	2.2	3.9	0.3	△1.0	4.1	5.3
製造工業	2.2	3.9	0.3	△1.0	4.1	5.3
鉄鋼業	0.6	2.7	1.3	△1.3	4.0	0.2
非鉄金属工業	4.6	13.0	4.3	1.1	7.4	4.8
金属製品工業	1.2	5.9	1.9	3.4	△9.7	5.0
機械工業	2.7	△0.7	△2.8	△4.0	8.4	5.8
一般機械工業	△1.7	△0.5	△0.8	△2.7	3.8	2.6
電気機械工業	8.6	0.7	△4.0	△5.9	14.2	9.0
輸送機械工業	△12.5	△12.8	△5.8	9.3	△6.6	8.6
精密機械工業	△1.0	△5.7	△8.5	△4.2	0.0	2.3
窯業・土石製品工業	△0.6	10.4	6.7	0.7	3.0	4.0
化学工業	5.1	21.2	2.1	18.4	△4.8	19.1
石油・石炭製品工業	1.0	1.5	△2.3	2.0	0.3	△3.0
プラスチック製品工業	3.4	3.8	1.6	1.2	3.6	2.3
パルプ・紙・紙加工品工業	1.4	8.7	3.1	2.3	3.5	0.5
繊維工業	△0.5	0.1	△2.5	△3.2	△3.8	0.7
食料品・たばこ工業	3.5	3.0	6.7	△4.8	△4.9	0.1
その他工業	△4.9	1.8	1.2	2.1	0.0	1.1
ゴム製品工業	△0.6	△3.8	△1.0	1.4	△4.2	0.8
皮革製品工業	△0.4	2.0	2.8	1.4	△3.8	△3.0
家具工業	△26.8	10.4	8.7	10.4	△8.4	3.8
木材・木製品工業	△0.3	5.5	0.3	3.7	2.9	2.9
その他製品工業	△3.8	△1.0	4.1	△7.0	6.9	△0.7
鉱業	△7.6	△6.6	△4.1	△4.6	△2.3	1.6

〔注〕 前年増減率は原指数による。
前期増減率は季調済指数による。

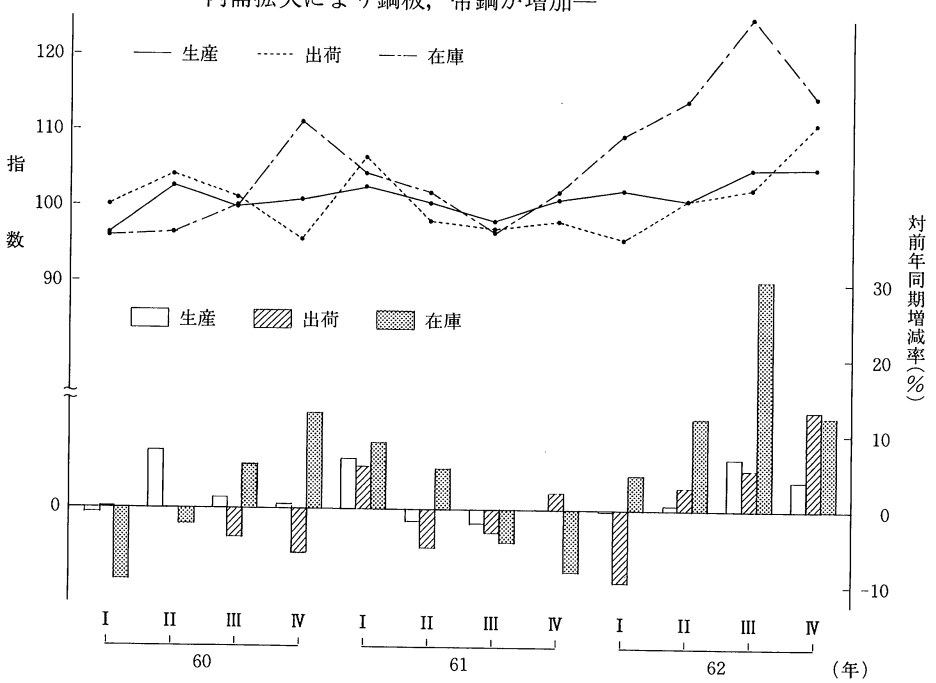
図―1　鉱工業指数の四半期推移



図―2　業種別の概況

図―2―(1)　鉄　鋼　業

―内需拡大により鋼板，帯鋼が増加―

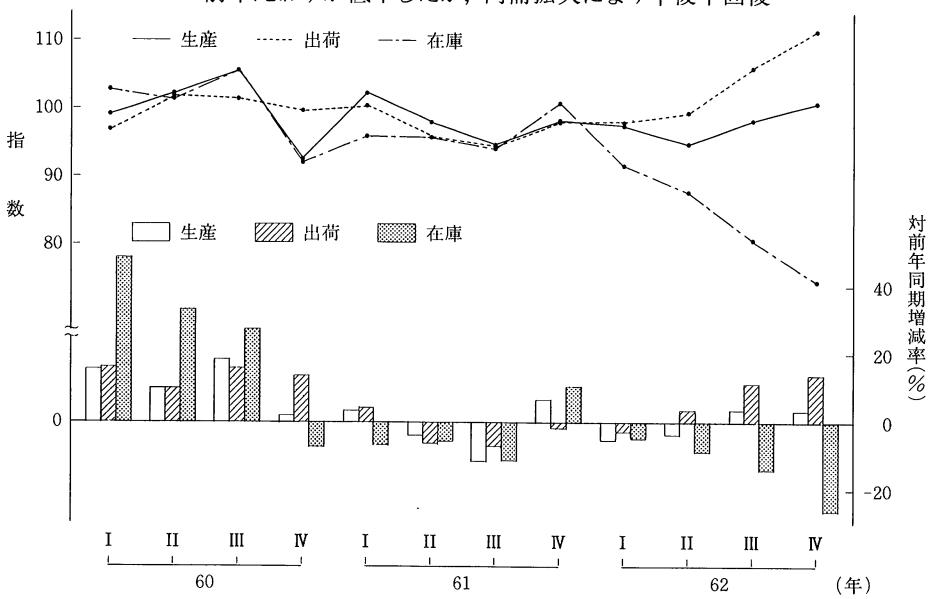


62年の鉄鋼業の生産は，特殊鋼熱間鋼管，特殊鋼熱間圧延鋼材が減少したものの，鋼板，普通鋼冷延広幅帯鋼，鋼帯が増加したことにより103.4で前年比2.7%の上昇となった。出荷は102.8で同2.9%の上昇，在庫は107.8で同12.4%の上昇となった。

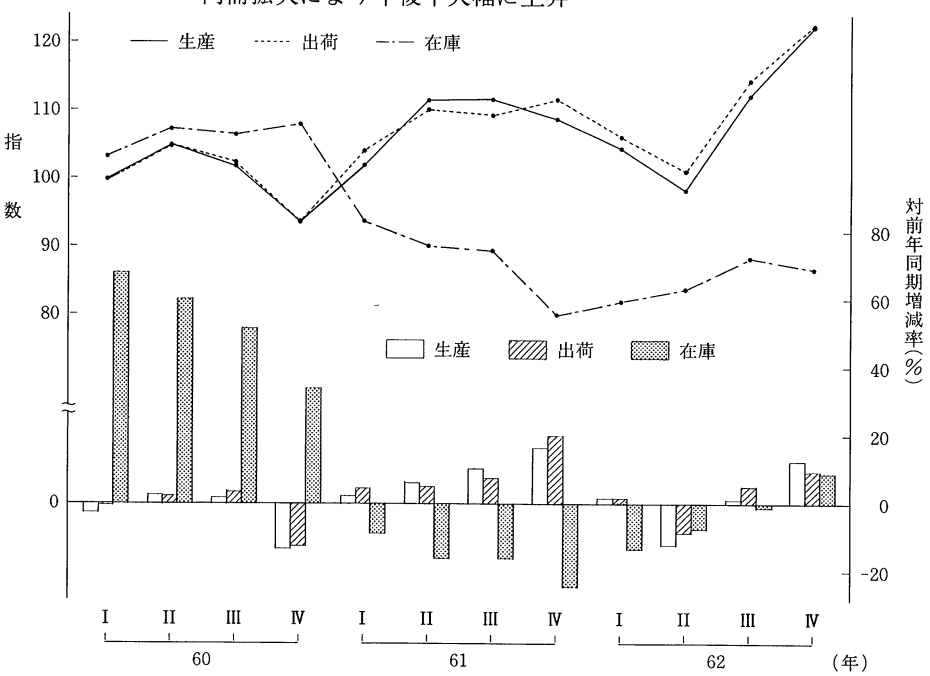
生産の年間の動きを前期比でみると，1～3月期は1.3%の上昇，4～6月期は△1.3%の低下，7～9月期は4.0%の上昇，10～12月期は0.2%の上昇となった。前年同期比では1～3月期を除き上昇した。

62年の一般機械工業の生産は，

図―2―(2)　一般機械工業
―前年比わずか低下したが，内需拡大により年後半回復―



図―2―(3)　電気機械工業
―内需拡大により年後半大幅に上昇―



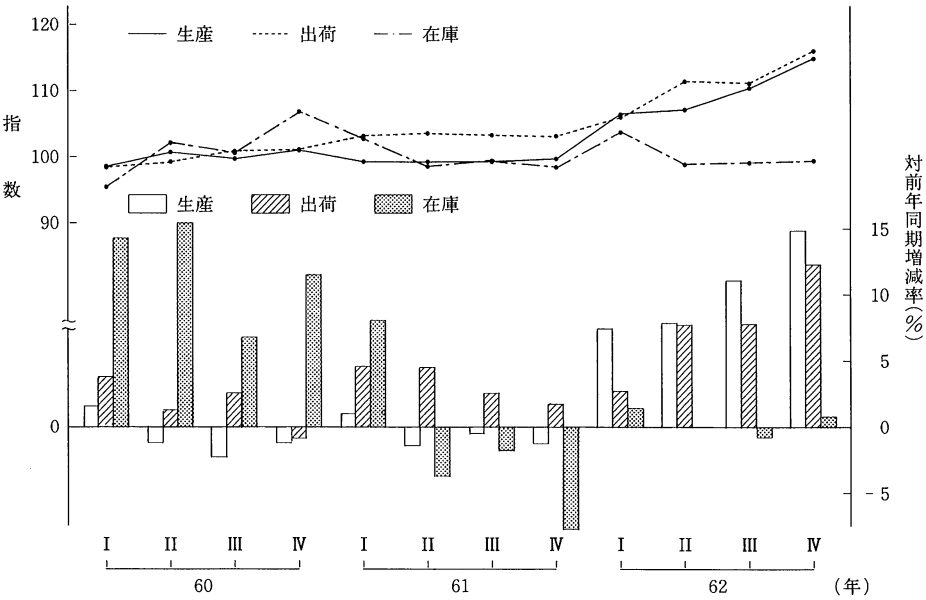
ショベル系掘削機械，印刷機械が増加したものの，複写機，タービン，圧延機械，電卓が減少したことにより97.8で前年比△0.5%と2年連続の低下となった。出荷は103.6で同6.5%の上昇，在庫は77.4で同△26.1%の低下となった。

生産の年間の動きを前期比でみると，1～3月期は△0.8%の低下，4～6月期は△2.7%の低下，7～9月期は3.8%の上昇，10～12月期は2.6%の上昇と，年後半は上昇に転じた。前年同期比でも年前半は低下したが，年後半は上昇に転じ回復傾向を示した。

62年の電気機

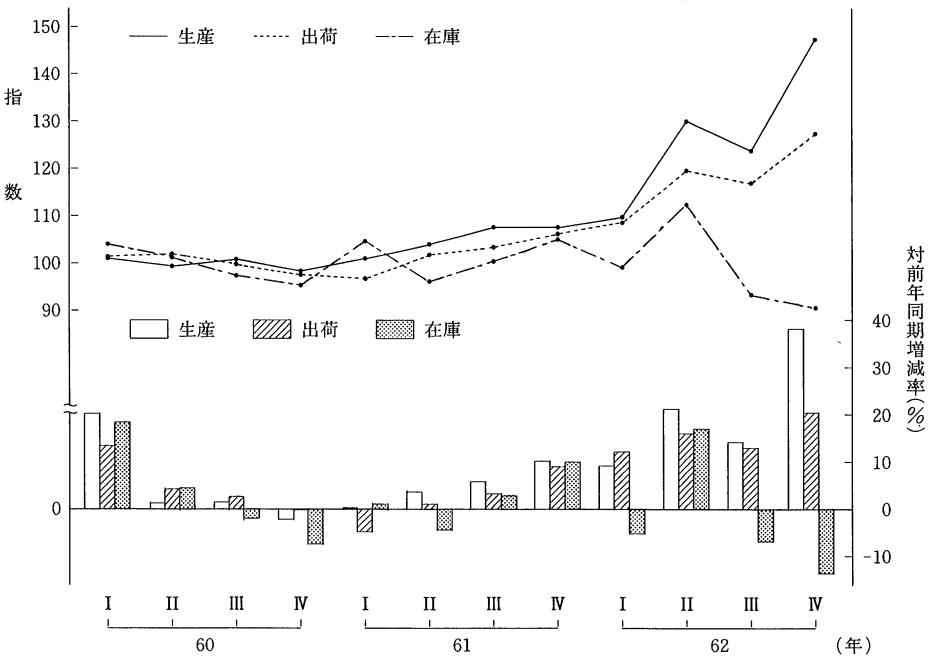
図―２―(4)　窯業・土石製品工業

―建築，公共事業関連品目の増加により大幅に上昇―



図―２―(5)　化学工業

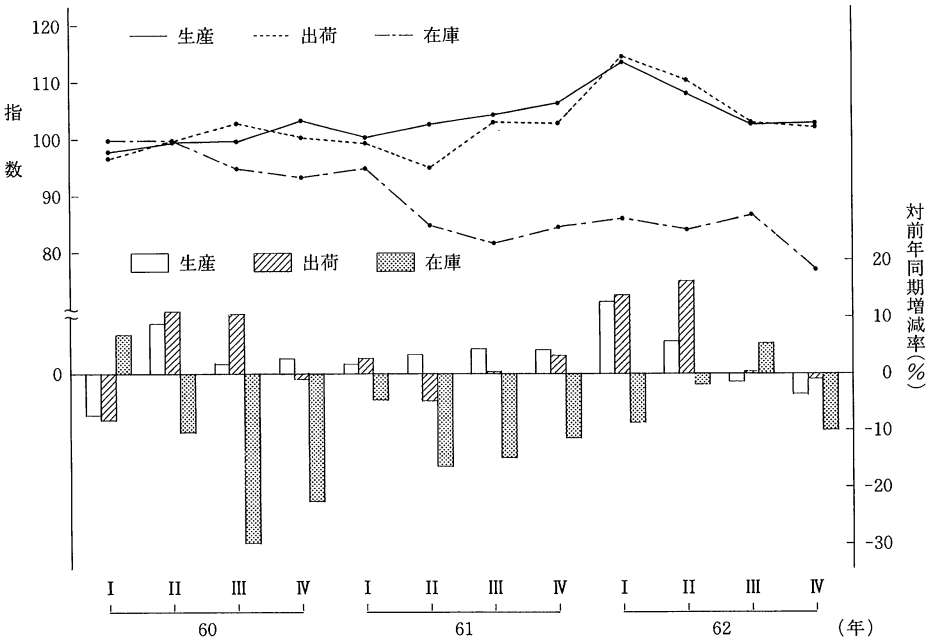
―ほとんどの品目が増加し21.2%と大幅な上昇―



械工業の生産は，発電機，ビデオテープレコーダが減少したものの，ビデオカメラ，カラーテレビ，ファクシミリ，開閉制御装置，磁気録画テープが増加したことにより109.4で前年比0.7%の上昇となった。出荷は111.1で同1.9%の上昇，在庫は85.3で同8.9%の上昇となった。

生産の年間の動きを前期比でみると，１～３月期は△4.0%の低下，４～６月期は△5.9%の低下，７～９月期は14.2%の上昇，10～12月期は9.0%の上昇と，年後半は大幅な上昇となった。前年同期比では４～６月期は大幅な低下

図―2―(6) 食料品・たばこ工業
―4年連続の上昇―



(△12.2%)であったが，10～12月期には大幅に上昇(12.5%)した。

62年の窯業・土石製品工業の生産は，ガラス・ガラス製品，セメント製品が増加したことにより109.8で前年比10.4%と3年ぶりに上昇した。出荷は111.3で同7.7%の上昇，在庫は96.1で同0.8%の上昇となった。

生産の年間の動きを前期比でみると，1～3月期は6.7%の上昇，4～6月期は0.7%の上昇，7～9月期は3.0%の上昇，10～12月期は4.0%の上昇となった。前年同期比でも各期とも上昇，特に年後半には2ケタ台の上昇をした。

62年の化学工業の生産は，ほとんどの品目が増加したことにより127.4で前年比21.2%と大幅に上昇した。特に，医薬品，石油化学製品(ポリエチレン，ポリプロピレン，スチレンモノマー等)が大幅に増加した。出荷は118.1で同15.6%の上昇，在庫は85.4で同△13.6%の低下となった。

生産の年間の動きを前期比でみると，1～3月期は2.1%の上昇，4～6月期は18.4%と大幅に上昇，7～9月期は△4.8%の低下，10～12月期は19.1%と大幅に上昇した。前年同期比では各期とも大幅に上昇した。

62年の食料品・たばこ工業の生産は，ビール，米菓が減少したものの，清涼飲料，肉製品，飲用牛乳が増加したことにより106.6で前年比3.0%と4年連続の上昇となった。出荷は106.9で同6.7%の上昇，在庫は57.0で同△10.0%の低下となった。

生産の年間の動きを前期比でみると，1～3月期は6.7%の上昇，4～6月期は△4.8%の低下，7～9月期は△4.9%の低下，10～12月期は0.1%の上昇となった。前年同期比では上期は上昇し，下期は低下した。

(統計課・企画分析グループ)